

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.8)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	精華聖マリア幼稚園	階数	地上3F	
建設地	京都府相楽郡	構造	S造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	140人	
気候区分		年間使用時間	1,100時間/年	
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2014年12月 予定	評価の実施日	2013年8月28日	
敷地面積	2,159 m ²	作成者	安井建築設計事務所 嶋野	
建築面積	1,070 m ²	確認日	2013年8月28日	
延床面積	2,401 m ²	確認者	〇〇〇	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.9**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.1**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>幼稚園の設計において、管理部分・園舎部分に分けられる。管理部分は白い明るいイメージの四角いボリュームとし、園舎部分は赤い勾配屋根の高さを抑えた園児に相応しい空間を形成した。敷地周辺のフェンスにはツタを這わせ、周辺住民にとって緑豊かな場所であると認識できるように幼稚園を目指した。</p>	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価しにくい環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>外壁にALCを採用することで、外気負荷の低減を図っている。また、自然通風が取れるように窓を配置し、なるべく</p>	<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>バリアフリー法に従った設計とすることで段差の無い床とし、身障者にとって使いやすい設計としている。職員の執</p>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>太陽光パネルを勾配屋根部分に設置し、自然エネルギーに配慮すると共に、周辺住民に対しても自然エネルギー利用をアピールしている。</p>	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>節水型の便器を採用するなど、水資源の節約に努めている。</p>
	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>敷地周辺のフェンスには実なるツタを生やし、周辺住民にとっても緑豊かな場所であると認識されるようなフェン</p>
	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>広告物を設置していないため、広告照明を設けない計画としている。また、利用者用の駐輪場を設けることで利便性を確保するとともに、道路等への駐輪がされないように配</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される